

# 平成23年度 業務実績の概要









# 独立行政法人国立精神・神経医療研究センターの概要

## 世界に一つだけの精神・神経センター

世界中に精神あるいは神経研究所は数多くあるがNCNPは精神と神経の研究と診療を一体的に行っている「世界にひとつだけのセンター」



## 当センターの使命

病院と研究所が一体となり、精神疾患、神経疾患、筋疾患及び発達障害の克服を目指した研究開発を行い、その成果をもとに高度先駆的医療を提供するとともに、全国への普及を図る

**設立:** 平成22年4月1日

**役員数**(平成24年4月1日現在) :

常勤役員3名、常勤職員704名

**主な組織:** 神経研究所、精神保健研究所、  
トランスレーショナル・メディカルセンター、病院

**運営病床数:** 468床

**運営状況**(平成23年度実績):

- ・総収益 124.4億円、総収支率 92.5%
- ・経常収益 124.4億円、経常収支率 94.2%
- ・1日平均入院患者数 397.5人
- ・1日平均外来患者数 478.1人
- ・外部資金獲得額 23.4億円  
競争的研究資金含む

**設置根拠:** 高度専門医療に関する研究等を行う独立行政法人に関する法律(平成20年法律第93号)

**センターの行う業務:**

精神・神経疾患等に係る医療に関し、調査、研究及び技術の開発を行うこと

に掲げる業務に密接に関連する医療を提供すること  
精神保健に関し、調査及び研究を行うこと

精神・神経疾患等に係る医療及び精神保健に関し、技術者の研修を行うこと

から に掲げる業務に係る成果の普及及び政策の提言を行うこと

から に掲げる業務に附帯する業務を行うこと



# (独) 国立精神・神経医療研究センターの行う事業

- ・病院と研究所が一体となり、精神疾患、神経疾患、筋疾患及び発達障害の克服を目指した研究開発を行い、
- ・その成果をもとに高度先駆的医療を提供するとともに、全国への普及を図る

## 研究・開発

### 【現状と課題】

高度先駆的医療の開発及び標準医療の確立のため、**臨床を志向したすぐれた研究・開発成果**を継続的に生み出していくことが必要

**臨床研究**を病院内で高い倫理性、透明性を持って円滑に実施

精神・神経疾患等の特性を踏まえた**戦略的かつ重点的な研究・開発**の推進

## 医療の提供

### 【現状と課題】

国内外の知見を集約し、**高度先駆的医療の提供**及び最新の科学的根拠に基づいた医療の提供を行う。

患者・家族に必要な説明を行い、情報の共有化に努めることにより、**患者との信頼関係を構築**する。

**医療観察法**対象者に対して、退院後の地域生活への安全で円滑な移行を支援する**質の高い医療**の提供を行う。

**重症心身障害児(者)**に対して、心身の発達を促す医療及び様々な合併症を予防する**総合的医療**等、質の高い医療の提供を行う。

## 人材育成 情報発信

### 【現状と課題】

センターが国内外の有為な人材の育成拠点となるよう、リーダーとして活躍できる**人材の育成**を行うとともに、**モデル的な研修及び講習**の実施及び普及に努める。

センター及び都道府県における中核的な医療機関等間の**ネットワークを構築**する。

医療従事者や患者・家族が信頼のおける情報を分かりやすく入手できるよう、**国民向け及び医療機関向けの情報提供**を行う。

## 適切な業務運営の ための組織・予算

### 【現状と課題】

**効率的な業務運営体制**とするため、弾力的な組織の再編及び構築を行う。

**総人件費改革への取組**  
効率的な運営を図るため、**収支改善の実施及び電子化の推進**

**法令遵守(コンプライアンス)**  
等内部統制を適切に構築し、契約については、競争性及び透明性が十分確保される方法により実施

能力・実績本位の人材登用などの確立に努め、**優秀な人材を持続的に確保**する。



# NCNP 平成23年度業務実績

## 研究・開発

### (1) 臨床を志向した研究・開発の推進【S】

- ・施設横断的多職種のための専門疾病センター(多発性硬化症、筋疾患、てんかん、パーキンソン病・運動障害疾患、地域精神科モデル医療センター)の活動を充実して運営
- ・センター内での共同研究115件(22 95件)を推進
- ・TMCにおいて、研究棟の開棟、情報管理・解析部長の専任化等による支援体制の整備及びバイオリソース収集体制を強化したことにより、登録検体数1,096件(22 898件)が増加
- ・IBICを設置し、大型画像機器研究体制の整備の充実や、産業界や先端施設との連携を推進し共同研究を実施
- ・臨床研究簡易相談48件(22 43件)実施、医薬品・医療機器を伴う介入研究に関するQ&Aサイトを設置
- ・職務発明委員会において11件(22 10件)審査し特許出願

### (2) 病院における研究・開発の推進【A】

- ・研究に有効に活用するため、筋ジストロフィー(累計登録904件)や遠位型ミオパチー、パーキンソン病などの稀少疾患及び難病患者登録を推進
- ・治験等を推進するためCRCを常時10名配置し、147症例(22 156例)実施するとともに、FPIまでの短縮にも努め平均42.7日(22 48.6日)となった
- ・倫理性等の確保のため、研究倫理に関する倫理講座の実施や倫理審査申請システムの活用、また説明文書作成による協力患者負担軽減を実施

### (3) 戦略的・重点的な研究・開発の推進【S】

原著論文・総説発表件数 670件(22 648件)

#### (1) 疾病に着目した研究

- ・神経軸索変性過程における細胞内分子基盤を明らかにし、さらにこれを阻害することにより、ワーラー変性が抑制できることを示した。
- ・ミトコンドリア形態異常を伴う新たな先天性筋ジストロフィーを見出し、その原因遺伝子を世界で初めて明らかにした。
- ・fMRIイメージングにおいて、経頭蓋磁気刺激(TMS)により誘発される脳活動の時間変化をはじめて検討することに成功した。

#### (2) 均てん化に着目した研究

- ・行動制限最適化データベースソフト(eCODO)の充実により指標開発の推進
- ・研究成果、公開講座等の積極的な情報発信や精神疾患等に関するメディアカンファレンスの開催(計5回)



# NCNP 平成23年度業務実績

## 医療の提供

### (1) 高度先駆的医療、標準化に資する医療の提供 【A】

- ・うつ症状の鑑別診断補助のため光トポ検査270件(22 259件)の実施やパーキンソン病患者には薬剤血中動態モニターに基づく治療を提供
- ・パーキンソン病の上腹部型腰曲がりについて責任筋を同定し、長期効果が得られるよう明らかにし特許申請を行った。

### (2) 患者の視点に立った良質かつ安心な医療の提供 【S】

- ・新たに認定された認定遺伝カウンセラーを配置し、相談体制の強化
- ・CBTセンターを設置し、認知療法・認知行動療法の技能向上や人材育成のための研修を実施及び臨床研究体制を整備
- ・専門疾病センターにおけるチーム医療のみならず、栄養サポート、褥瘡対策、摂食・嚥下障害対策など複数の多職種チーム医療を実施
- ・登録医療機関制度(246施設登録)を推進し、地域連携強化のための取り組みを実施
- ・紹介率75.8%(22 69.6%)、逆紹介率58.3%(22 49.6%)      ・転倒・転落事故発生件数381件(22 341件)、転倒転落率0.26%(22 0.25%)
- ・行動制限最適化データベースソフト(eCODO)を活用し、精神疾患患者の行動制限の改善に努める

### (3) 医療政策の一環としての医療の提供 【A】

- ・医療観察法対象者に多職種チームによる治療計画作成や治療評価会議を全例に対して毎週実施し、対象者の家族会を9回開催
- ・指定通院医療機関として指定を受け通院医療を実施。また関係機関と連携し、退院後の状況等を情報収集することにより病棟治療の改善に寄与
- ・重心障害児(者)の摂食・嚥下ケアなど患者QOL向上の取組及び在宅支援病床を4床確保して、延べ191人受け入れを実施

## 人材育成

### 人材育成に関する事項 【S】

- ・研究・医療における専門家育成のため、TMC臨床研究研修制度(10回)実施や若手研究グループ事業の継続、若手育成カンファレンス(8回)等を開催
- ・医療従事者等に対するCBT等各種モデルの研修・講習を80回(22 67回)開催し、外部の受講者数は2,888人(22 1,664人)

## 情報発信

### 医療の均てん化と情報の収集・発信に関する事項 【A】

- ・センターとNHO等においてネットワークを構築し、情報の集約・評価を実施するとともに、市民公開講座の実施や国際的研究の進捗状況を確認してセンター内外へ発信      ・ホームページアクセス件数199.7万件(22 176.7万件)





# NCNP 平成23年度業務実績

## 政策提言、その他医療政策の推進

### 国への政策提言に関する事項、その他我が国の医療政策の推進等に関する事項【S】

- ・都道府県が策定する医療計画に精神疾患が加わる方針となったことから、標準医療・モデル医療の均てん化の観点から進捗を評価する研究を実施
- ・自殺対策推進会議(内閣府)の座長や再生医療の実現化プロジェクト(文部科学省)のプログラムディレクターとして参画するなど、種々の委員会等に積極的に協力
- ・次年度に自殺総合対策大綱の見直しが予定されていることから、自殺関連学会等とWGを設置し、見直しに向けての提言第1次案を策定
- ・東日本大震災への対応として、メンタル情報サイトの充実、医師、看護師等及び心のケア専門家を派遣し支援活動を実施。また継続的な対応及び今後の災害に備えた体制づくり等のため、災害時こころの情報支援センターを設置して、被災三県の心のケアセンターに対して助言等を実施
- ・海外の研究所や大学、WHO等と連携し積極的に国際貢献を実施。また海外からの研修生及び研究者を18名(22 17名)受け入れ

## 業務運営の効率化

### 効率的な業務運営体制【A】

- ・病院の使命を果たすべく24年度から特命副院長2名の配置を決定した
- ・事務職員を対象としたスキルアップ研修等を実施
- ・企画戦略室員に2名専任職員を配置し、運営改善等に取り組んだ
- ・両研究所のあり方については、外部有識者を加え検討会を随時開催

### 効率化による収支改善・電子化の推進【B】

- ・経常収支率94.4%(22 99.8%)
- ・委託契約見直し等により一般管理費の節減 23.1%(平成21年度比)
- ・多職種との協働等により医業未収金比率0.038%(22 0.056%)
- ・医薬品等の6NC共同入札等により材料費率17.0%(22 17.3%)
- ・仮想サーバ環境構築、WEB研修システム等稼働による業務効率化
- ・月次決算の実施及び病院管理診療・経営会議等での改善策検討

### 法令遵守等内部統制の適切な構築【A】

- ・監事と連携した書面監査、内部監査及び会計監査人による監査を実施
- ・契約監視委員会の点検・見直しに対し改善策を実施
- ・原則、一般競争入札等を実施及び契約状況等の公表を実施

### 予算、収支計画及び資金計画等【A】

- ・寄附や受託研究等の外部資金獲得額237百万円(22 318百万円)
- ・厚労科研費等の競争的研究資金獲得額2,104百万円(22 2,255百万円)
- ・長期借入金当期償還額52百万円、期末残高3,027百万円

### その他主務省令で定める業務運営に関する事項【A】

- ・自家発電整備や第1井戸の改修により次年度からのコストを削減
- ・医師、看護師の確保対策及び優秀な人材を公募により採用(23名)
- ・センター運営の問題点や改善策など職員の意見等を聴取できるよう職員提案窓口を設置し提案内容の対応状況等を全職員にフィードバック



# 前年度業務実績評価に対する取組と成果(要約)

## 1. 研究・開発

- 臨床志向型研究・開発の推進 専門疾病センターの活動の充実(NMO治療薬適応拡大研究、PD姿勢障害の分類法確立等)、TMC・IBICにおける体制整備(ハード(設備)、ソフト(人材)の充実。イメージング研究基盤整備。研究支援機能の強化等)
- 病院での研究の推進 稀少疾患・難病患者登録事業の推進、医師主導治験(臨床研究)支援体制の強化、クラスター病棟の運用開始等
- 戦略的・重点的研究の推進 神経軸索変性の機序の解明、筋ジストロフィーにおける新たな遺伝子異常の発見、新たなイメージング手法の開発、PD姿勢異常治療法の特許申請等

## 2. 医療の提供

- 高度先駆的医療の提供 光トポグラフィ検査の実施やパーキンソン病関連疾患の姿勢異常に関する新規治療法の提供等
- 良質・安心な医療の提供 モデル的チーム医療の実践(専門疾病センターの取組、チーム医療実証事業等)、センター独自の患者満足度調査の試行・分析、退院後の在宅支援の強化(訪問看護件数371件 1,015件 1,564件)

## 3. 人材育成・均てん化

- 人材育成・モデル研修の実施 TMCにおいて研究・医療における専門家育成のため各種研修・講習会を実施、従来の精神科医療評価・均てん化研修等に加え、認知行動療法センターの設置に伴い厚労省研修事業のうつ病CBT研修等を実施
- 均てん化 精神科救急医療の質のモニタリング、てんかん診療の実態分析等を実施するためネットワーク構築を推進

## 4. 情報発信・医療政策の推進等

- 情報発信の推進 広報の強化(規定の整備、HP分析ツールの導入)、メディアカンファレンスの開催
- 東日本大震災の対応 災害時こころの情報支援センターの設置(被災3県心のケアセンターへの支援、厚労省支援事業の受託)、医療支援チームの派遣(11クール延べ45名の医師、看護師等を派遣)等

## 5. 業務運営

- 効率的・効果的な業務運営 研究所のあり方検討会の設置、特命副院長の配置を決定(臨床研究・経営担当、教育・情報担当)、事務職員定数見直し(6名削減を決定)、実地内部監査の実施 等
- 効率化による収支改善 一般管理費の節減( 23.1%)、医業未収金対策の推進(0.054% 0.056% 0.038%)等

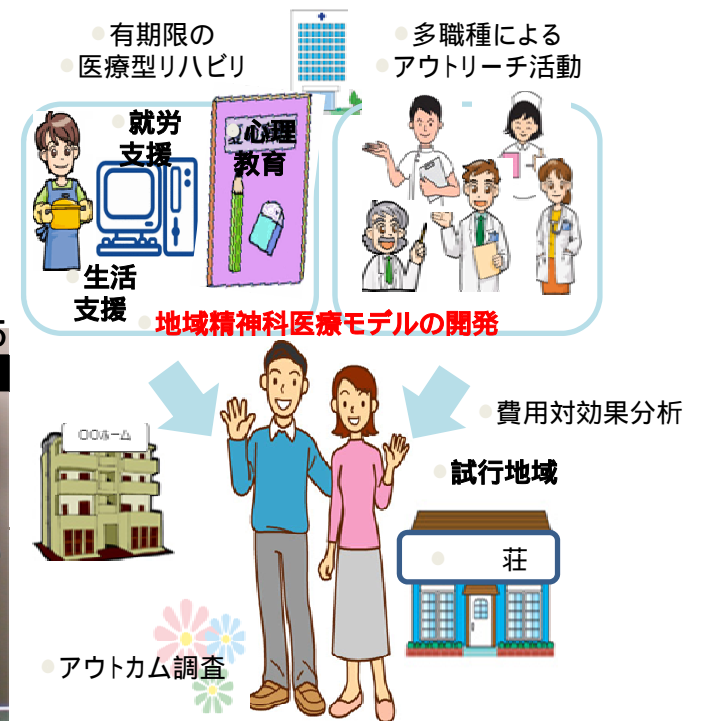
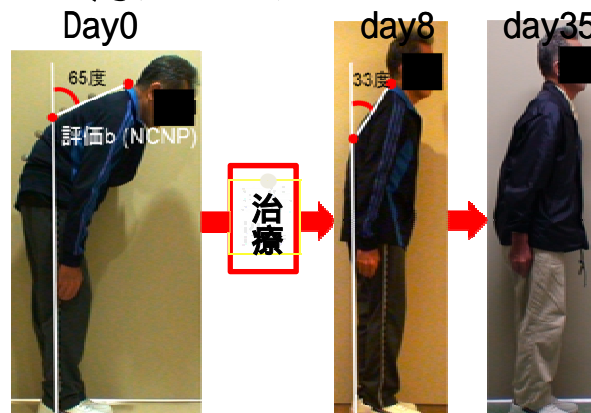
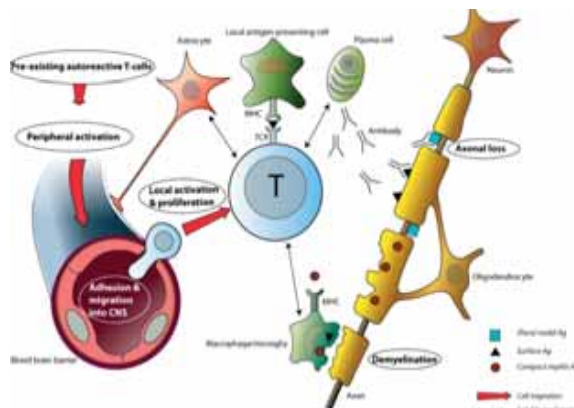




# 専門疾病センター

病院・研究所といった組織の横断的な取り組みを通じ、高度・専門医療を提供し、併せて臨床分野と基礎研究分野が緊密に連携した臨床研究を推進する。

1. パーキンソン病・運動障害疾患センター
2. 筋疾患センター
3. 多発性硬化症センター
4. てんかんセンター
5. 地域精神科モデル医療センター



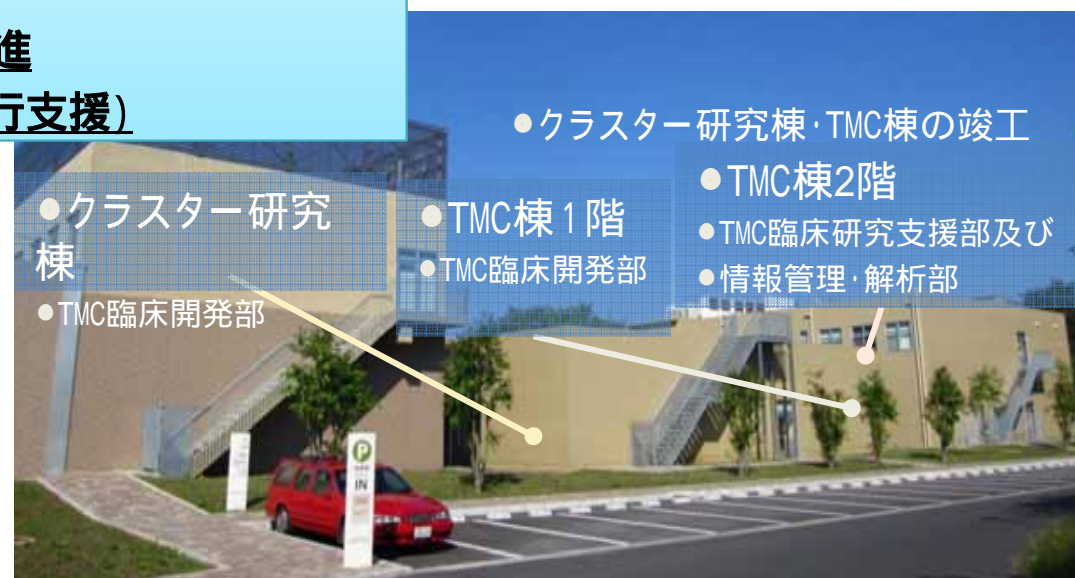
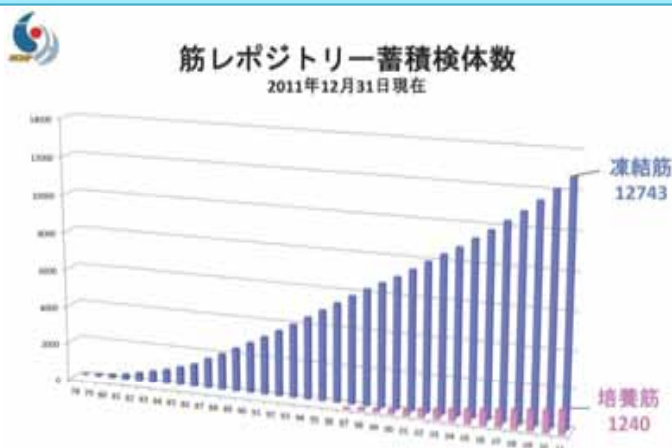
# トランスレーショナル・メディカルセンター (TMC)

研究シーズの臨床への応用、臨床ニーズの研究への適応等、研究所と病院を有機的に繋ぐ組織であり、専門人材育成、質の高い臨床研究・治験推進のための支援等を担う。

1. 人材育成
2. 臨床研究支援体制の強化
3. 臨床研究の倫理性確保のための体制整備
4. 臨床研究の効率的実施のための体制整備
5. 企業との協力関係等の構築
6. 国際共同での医師主導治験の推進
7. バイオリソースの収集・保存と利用促進
8. 橋渡し研究の推進(臨床開発への移行支援)



若手育成のワークショップ



# 治験管理室 (臨床研究含む)

## 1. 実施症例数 (治験)

平成21年度 128例 承認申請後の継続投与試験を除く  
平成22年度 156例  
平成23年度 147例

## 2. 実施件数 (治験・臨床研究)

平成21年度 138件 (治験:56件、臨床研究:82件)  
平成22年度 154件 (治験:49件、臨床研究:105件)  
平成23年度 172件 (治験:54件、臨床研究:118件)

## 3. 効率性の向上 (治験)

治験申請から最初の症例登録 (First Patient In) までの期間 (目標値:100日以内): 平均42.7日

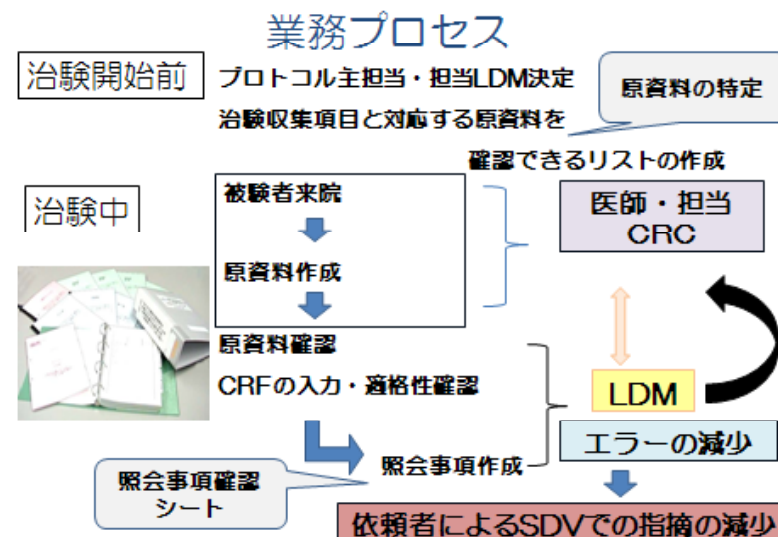
## 4. 国際共同治験への積極的な取り組み (治験)

平成21年度 16.1 %  
平成22年度 18.4 %  
平成23年度 24.0 %

## 5. CRCとLDMによるチーム支援体制

治験の効率化、原資料・症例報告書の品質保証、  
医師主導治験、臨床研究の支援及び円滑化

医療機関内の品質管理プロセスの構築  
～ LDM導入の効果～



### 品質の向上

原資料記録段階のエラーが削減  
(LDMからのフィードバックによる削減)  
CRF作成時のエラーが削減

### 効率化・省力化

EDCの入力効率が向上  
CRF作成完了までの期間が短縮  
CRC一人あたりの担当治験数が増加  
(CRC業務のスリム化による)  
治験依頼者とのスムーズな連絡体制を構築





# 脳病態統合イメージングセンター (IBIC) の設立

高度画像診断や非侵襲脳機能計測に要する、最先端の研究機器等を用いた統合的画像研究を推進し、精神疾患、神経疾患、発達障害、筋疾患の病態解明や診断治療技術の開発を担う

## 画像診断治療研究部

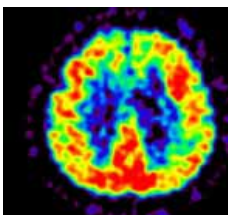


MRI  
SPECT  
MEG

・研究 イメージング法  
シーケンス  
診断法・技術  
機能的治療法

・研究者の育成  
画像カンファレンス  
トレーニングコース

## 分子イメージング研究部

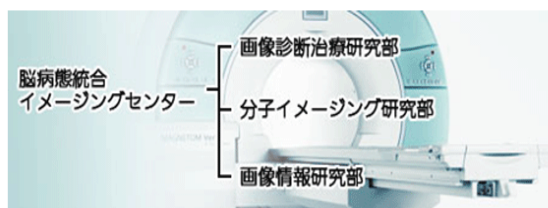


PET  
サイクロトン

・研究 病態メカニズム  
核医学診断法・技  
術機器・薬剤

・創薬 マイクロドージング

IBIC(=Integrative Brain Imaging Center)  
脳病態統合イメージングセンター



多次元的なデータベースを構築

脳バンク・遺伝子バンク等の  
バイオリソース

## 画像情報研究部

・研究 解析手法  
多施設共同研究  
イメージング標準化

・研究者の育成

・画像解析・診断の受注

・画像を用いた治験

・精神・神経疾患、希少疾患の  
脳画像の蓄積



多施設共同利用



# 認知行動療法センター (CBTセンター) の設立

認知療法・認知行動療法の研修(人材育成)・調査・研究(技法開発)・臨床支援等を通して、わが国における精神保健・医療・福祉の質の向上を担う

講習会

臨床家は、CBT治療の実技訓練を受ける

臨床研修

指導者は、指導者指導コースへの参加

臨床研究

研究者は、複合的・多面的な研究の実践



**CBT専門治療技能**

講習会とスーパービジョン(CTAS, CTS等で評価)

国際認定組織Academy of Cognitive Therapy との連携

**一般臨床、地域・職域・教育活動のためのCBT技能**

**教育法訓練**

**臨床研究**

CBT臨床研究への参加、CBT臨床研究の方法論の習得

患者レジストリーシステム、RCT、脳画像、遺伝子との連携

臨床家

指導者

研究者

**対象**

医師、心理士、  
看護師、保健師、  
PSW、薬剤師 他



# 政策的医療の提供（医療観察法病棟）

- ・医療観察法対象者への医療の提供（我が国最大 68床）
- ・我が国唯一の身体合併症医療対応 ・全国26指定入院医療機関の牽引役
- ・裁判所、検察庁、保護観察所との強力な連携

## 多職種チーム医療

- ・運営会議（毎月）
- ・担当多職種チーム会議（毎週）

## 身体合併症医療

- ・院内連携モデル  
（総合内科・外科）
- ・多施設医療連携モデル  
（身体科高度専門医療）

## 教育・研修機能

- ・研修・見学受け入れ（234名）
- ・新規設置施設支援
- ・各種人材養成活動

## 地域連携・退院促進

- ・地域連携会議（CPA）
- ・外出外泊の実施
- ・通院医療処遇の開始  
（平成23年10月より）

## 政策提言・研究

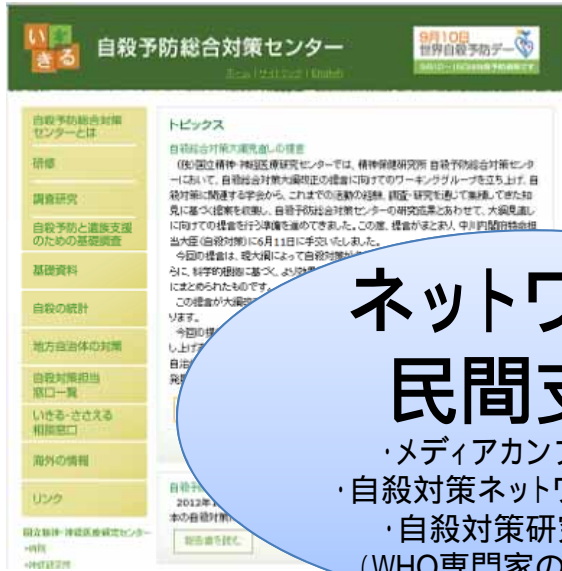
- ・厚生労働科学研究班 研究活動  
（全国入院対象者、全数調査）





# 自殺予防総合対策センター

政府の総合的な対策を支援



## 情報発信

- ・ウェブサイト「いきる」  
(アクセス月あたり5万件以上)
- ・地域における自殺対策の手引きを刊行
- ・ブックレットシリーズ第9号を刊行
- ・アルコール普及啓発資材  
「のめば、のまれる」を配布



## ネットワーク 民間支援

- ・メディアカンファレンス
- ・自殺対策ネットワーク協議会
- ・自殺対策研究協議会  
(WHO専門家の日本訪問)

## 調査研究

- 心理学的剖検
- ・地域における自死遺族支援の促進
- ・一般診療科と精神科の連携による  
うつ病患者の発見と支援
- ・自殺対策取組状況調査、振り返り調査
- ・東日本大震災被災地における  
自殺予防対策の検討

## 研修

- ・心理職自殺予防研修
- ・自殺総合対策企画研修
- ・精神科医療従事者自殺予防研修
- ・自傷行為とパーソナリティ障害の  
理解と対応研修
- ・NCNP内自殺予防研修

## 政策提言

- ・自殺対策の関連学会等と連携して、  
・自殺総合対策大綱の見直しに  
・向けての提言を作成



### 【平成23年度の重点課題への取組】

我が国の自殺対策の基本的な指針である「自殺総合対策大綱」(以下、大綱)は平成24年度に見直しが行われるため、自殺対策関連学会と連携して大綱見直しに向けての提言第一次案を策定  
東日本大震災の被災者支援・復興支援には、社会的取組と精神保健の連携という自殺対策の枠組みが有効である可能性があることから、それを事例的、定点観測を通じて、検証・発信を実施  
自殺対策におけるハイリスクグループアプローチの重要性を踏まえて地方自治体との連携研究等を推進



# 東日本大震災への対応

## 災害時こころの情報支援センター



- ・東日本大震災被災者に対する継続的な対応
- ・今後の災害に備えた体制づくりのための研修・調査を実施



### 情報システムの設計

- ・被災地側と派遣側の情報を蓄積し、被災地のニーズに見合った支援の在り方を共有する

### 海外研究者との連携作り

- ・メンタルヘルス体制や今後の共同研究体制について議論

### HP作成

- ・災害時の対応、対策のための情報提供
- ・動画作成

### データ収集・分析

- ・被災地への派遣実績の比較
- ・こころのケアチームの報告を収集・分析
- ・こころのケア活動に係る意見交換会
- ・被災県との情報交換・技術的支援

### こころのケアセンターとの連携

- ・災害時の情報収集・提供体制の在り方について議論
- ・こころの支援活動に対する技術的支援

## 被災地への医師等派遣実績

平成23年4月11日～平成23年7月1日福島県いわき市延べ45名、平成24年2月13日～平成24年3月28日福島県南相馬市 延べ6名      こころのケアチームとしての派遣は除く



# メディア カンファレンス



- (1) 幅広い層を対象としたメディアカンファレンスの定期開催(17～46人参加)
- (2) メディアの質問に中立的な立場から情報を提供し、より深く確かな報道を促進
- (3) メディアの関心やニーズを把握するためのアンケート調査を実施  
双方向的意見交換の場

- 第1回(4月27日)  
「災害後の心のケアと回復力」
- 第2回(7月25日)  
「アルコール関連問題」
- 第3回(11月24日)  
「メディアの報道と受け手の認知的成熟度、そしてメンタルヘルスの問題」
- 第4回(2月24日)  
「統合失調症の再発予防」
- 秋田メディアカンファレンス(12月2日)  
「自殺予防について」

## 【アンケート結果(60件中)】

テーマ: たいへんよい(70.0%)、よい(28.3%)

内容: たいへんよい(60.0%)、よい(36.7%)

理解しやすさ: たいへんよい(56.7%)、よい(38.3%)

## 【感想】

- ・様々なデータに基づいた説明で非常にわかりやすかった。
- ・病気に対する基本的な知識を持てる、こうしたセミナーはとても貴重です。





# 平成23年度 業務実績の概要 【参考資料】

